

ある精肉店のはなぶし



いのちを食べて
いのちは生きる

ほろりのしま
『祝の島』につづく
はなぶさ
瀬瀬あや監督作第二弾
プロデューサー: 本橋成一 製作: やしほ映画社、ポレポレタイムス社



釜山国際映画祭
ワイドアングル部門
正式出品作品



山形国際ドキュメンタリー映画祭
日本プログラム部門
正式出品作品

文化庁映画賞 文化記録映画大賞受賞
第5回辻静雄食文化賞受賞



牛の飼育から屠畜解体まで、
いのちが輝いている、
前代未聞の優しいドキュメンタリー。

鎌田 慧 (ルポライター)

大阪貝塚市での屠畜見学会。
牛のいのちと全身全霊で向き合う
ある精肉店との出会いから、この映画は始まった。
家族4人の息の合った手わざで牛が捌かれていく。
牛と人の体温が混ざり合う屠場は、熱気に満ちていた。
店に持ち帰られた枝肉は、
丁寧に切り分けられ、店頭に並ぶ。
皮は丹念になめされ、
立派なだんじり太鼓へと姿を変えていく。
家では、家族4世代が食卓に集い、いつもにぎやかだ。
家業を継ぎ7代目となる兄弟の心にあるのは
被差別部落ゆえの
いわれなき差別を受けてきた父の姿。
差別のない社会にしたいと、
地域の仲間とともに
部落解放運動に参加するなかで
いつしか自分たちの意識も変化し、
地域や家族も変わっていった。
2012年3月。
日々使用してきた屠畜場が、
102年の歴史に幕を下ろした。
最後の屠畜を終え、
北出精肉店も新たな日々を重ねていく。
いのちを食べて人は生きる。
「生」の本質を見つけてきた家族の記録。



北出さん家族と一緒にいるときも、
地域にいるときも、私は大きな安心感
に包まれていた。生まれ出た場所で、
自分が自分として生きること。それを
考え抜き、生き抜いてきた彼らは、
しなやかでありながら揺るぎなく、
そして果てしなく慈愛に満ちていた。

監督：瀬瀬あや

監督：瀬瀬あや プロデューサー：本橋成一

撮影：大久保千津奈 録音：増田岳彦 編集：鶴岡邦彦 サウンドデザイン・整音：江夏正晃 (marimo RECORDS) 音楽：佐久間順平 宣伝：西岡里佳 製作デスク：中植きさら
製作統括：大槻貴宏 クラフィックデザイン：大橋祐介 協力：映画「ある精肉店のはなし」を応援する会 製作：やしほ映画社、ポレポレタイムス社

2013年/日本/108分

『ある精肉店のはなし』公式ホームページ：<http://www.seinikuten-eiga.com/>

2022年度 環境教育セミナー

いのちを食べて いのちは生きる：

『ある精肉店のはなし』

上映& 纈纈あやさん・北出新司さん講演会

2022年 11月9日 (木)

13:00~17:30

事前申込【10月31日(月)まで】

参加無料

お申込みはこちら

(<https://forms.gle/e9qwXzuqXvB1RmPVA>)

会場：
東京学芸大学
環境教育研究センター
多目的室

〈講師〉

* 纈纈あやさん：映画監督。『祝の島』（2010）を初監督。『ある精肉店のはなし』（2013年）で大阪府貝塚市の北出精肉店の家族の暮らしを描いた。平成26年度文化庁映画賞文化記録映画部門大賞。第5回辻静雄食文化賞。

* 北出新司さん：大阪府貝塚市にある北出精肉店店主。店の歴史は江戸時代末期まで遡ることができ、代々、と畜を生業としてきた。7代目。高校時代に『水平社宣言』に出会い部落差別問題に開眼。以降、家業のかたわら部落解放運動、特に地域の福祉問題を中心に活動する。

〈問い合わせ〉 sdgs21@u-gakugei.ac.jp

主催：東京学芸大学環境教育研究センター

マスク着用等の感染症対策にご協力をお願いします。なお、体調が良くない方は参加をご遠慮ください。